

社員を大切にする

当社は今年で創業73年目を迎えた。この長い期間、それほど大きな困難もなく生き延びてこられたことは、周囲の皆さまと良い関係を持ち続けられたことに尽きる。とりわけ社員の皆さんを大切に、家族のような関係を続けられてきたことが大きい。

終戦直後のモノのない時代、造れば飛ぶように売れる状況の中で、中小企業は人材難に苦しめられた。当社もこの多分に漏れず、有望な社員をふんだんに採用できた年は一度もなかった。当社に入社してくれた社員への感謝の気持ちはこの上ないものだ。

母は社員が仕事を終えると、甘酒やぜんざい、寒天、焼き芋などをふるまっていた。そんな親の背中から、私は社員

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 16



を大切にする経営を学んだ。離職する人はほとんどなく、風通しの良い社風ができたと自負している。親子で社員にさまざまな心遣いをしてきたつもりだが、その事例をひとつ紹介したい。

家族へのお年玉

第2次オイルショックの前年、1978（昭和53）年の正月のことだ。12月の始め、父に「300万円の金を使いたい」とお願いした。私は正月に社員の家族にお年玉をあげたいと考え

は最良の1年だったことをご報告いたします。売上高は過去最高を記録し、利益は法人の紳士録に掲載される400万円に届きそうな額でした。社員の平素の努力と会社に対する協力を頂いた結果であることは言うに及ばず、常口頃、ご家族の皆様の間ながらのご支援があつてこそその結果と存じます。

た。しかし「そんなことをして来年出せなかつたら、社員から苦情が出るぞ」と言い返された。「もし苦情が出るなら、私が責任を持つて言い含める」と言うので、「勝手にしろ！」と父はこれをしぶしぶ許してくれた。

（中略）まことに些少（さししょう）で恐縮ですが、ご家族の皆様へ私の感謝の気持ちをこ笑納ください。

社員の家族に宛てた手紙

私は父に代わつて、次のような手紙を書き、元旦の午前中に家族宛の現金封筒を送った。

代表取締役 伊藤正一
わずか300万円のプレゼントがきっかけとなり、それ以降、給与や福利厚生などの苦情は一切なく、まとまりのある強力な企業軍団ができて上がった。正月の休み明けには、多くの家族が父に

「明けましておめでとうございます。ご家族の皆様、当社は色んな面で昨年、本当に金の使い方が上手やな！」

新年の挨拶
おのれいふこと、おのれいふこと
伊藤製作所の伊藤澄夫でございます。
伊藤製作所の皆様へお年玉を贈ります。
お祝いを申しあげます。
さう今年も皆様は輝かしい新年を迎えられたことと存じます。
（中略）

平成三年 元旦

伊藤製作所 伊藤澄夫